

製品名: LAMB1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80699**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	/

抗原情報

遺伝子名	LAMB1
別名	CLM; MGC142015
遺伝子 ID	3912.0
SwissProt ID	P07942
免疫原	大腸菌で発現した LAMB1 (aa31-270) の精製された組み換え断片。

背景

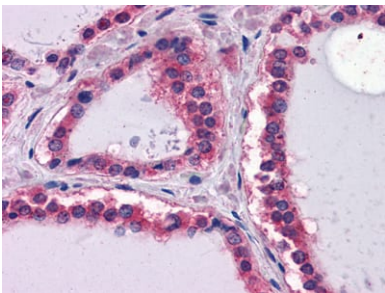
LAMB1: ラミニン β 1。ラミニンは細胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーであり、基底膜の主要な非コラーゲン性構成成分です。細胞接着、分化、遊走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。

ます。ラミニンは、ラミニン α 、 β 、 γ (以前はそれぞれ A、B1、B2) という3つの非相同鎖から構成され、それぞれ異なる鎖からなる3本の短腕と、3本すべての鎖からなる長腕からなる十字形構造を形成します。各ラミニン鎖は、それぞれ異なる遺伝子によってコードされるマルチドメインタンパク質です。各鎖には複数のアイソフォームが報告されています。異なるアルファ、ベータ、ガンマ鎖異性体が組み合わさって、異なるヘテロ三量体ラミニンアイソフォームが生じます。これらは発見順にアラビア数字で指定されます。つまり、アルファ1ベータ1ガンマ1ヘテロ三量体はラミニン1です。異なる鎖と三量体分子の生物学的機能はほとんどわかりませんが、一部の鎖は組織分布に関して異なることが示されており、おそらく生体内での多様な機能を反映しています。この遺伝子は、ベータ鎖アイソフォーム ラミニン、ベータ1をコードします。ベータ1鎖には、他のベータ鎖異性体と共有する7つの構造的に異なるドメインがあります。ドメインIとIIを含むC末端ヘリカル領域はドメインアルファによって分離され、ドメインIIIとVにはいくつかのEGF様リピートが含まれ、ドメインIVとVIは球状の構造を持っています。ラミニン β 1は、基底膜を形成するほとんどの組織で発現しており、ラミニン1を構成する3つの鎖の1つです。ラミニン1は、エンゲルブレス・ホルム・スウォーム (EHS) 腫瘍から最初に単離されたラミニンです。細胞接着、走化性、およびラミニン受容体への結合に参与する β 1鎖の配列が同定され、転移阻害能を持つことが示されました。

研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

画像データ



LAMB1 マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト甲状腺組織の免疫組織化学分析